

アジア太平洋都市サミット ニュースレター

No. 45 2019年3月号

目次

- I 福岡市で世界銀行がテクニカルディープダイブを開催しました（報告）・・・1
- II 国連ハビタット福岡本部だより（連載20）
国連ハビタットの最近の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

I 福岡市で世界銀行がテクニカルディープダイブを開催しました（報告）

福岡市と世界銀行はアジア太平洋都市サミットを契機として、昨年6月に都市における課題の解決に向けて協力する覚書(都市パートナーシッププログラム)を締結しました。それをきっかけとして、福岡市の官民連携による公共交通指向のまちづくりに注目した世界銀行からの要望を受け、今年1月23日～24日の日程で世界銀行の実務者研修会合(テクニカルディープダイブ)を福岡市で初めて開催しました。

研修は、世界銀行の融資案件を有する発展途上国13か国の政府関係者に対して、福岡市の都市機能が充実したコンパクトなまちとして発展してきた経験を共有し、とても有意義なものとなりました。

1日目は福岡市副市長の各国からの参加者を歓迎するウェルカムスピーチから始まりました。福岡市は若者や外国人が増えており、住みやすい都市と評価されており、福岡市での研修が参加者にとって良い学びになることを期待しました。

続いて、福岡市の住宅都市局の担当者が福岡市のまちづくりについて説明しました。都心部に集中する公共手段を分散化させるため、電車や地下鉄バスなど様々な交通機関が整備されており、開発については都市機能が充実するコンパクトな街づくりを目指す一方、再開発も推進していると語りました。その後、西鉄福岡(天神)駅を中心に、企業がかかわりながら開発された天神の街並みを視察しました。

午後からは、公共空間の開発のプロセスについて学びました。市民参加型の公共空間の設計、管理を行うために、市民や民間のステークホルダーがどのように関わってきたかについて発表しました。政府、地元、大学の協力によって以前はマイナスのイメージがあった場所が素晴らしい公共スペースに変わった例として警固公園を視察しました。



1日目副市長挨拶の様子



1日目警固公園視察の様子



1日目旧大名小学校視察の様子

2日目は、福岡市において民間企業を巻き込みながら実際にどのような開発をしていったのかを発表しました。福岡市住宅都市局と九州旅客鉄道株式会社を招いて、役割分担や開発の進め方について発表しました。担当者は、福岡市とJR九州の両者だけでなく、様々なステークホルダーと話し合いを重ねることによって、この再開発を成功させることができたと言いました。

3日目は東京に移動し、今回の研修の学びをフィードバックを行いました。福岡市からも国際部のアジア太平洋都市サミット担当課長が参加し、今回の学びに関するコメントを行いました。研修の全日程を通して参加者は都市交通に関して様々な取組みを知ることができとても参考になる意義のある研修だったとの感想がありました。

〈テクニカルディープダイブ in 福岡 概要〉

《テーマ》 公共交通指向型開発とエリア特化型の公共空間整備

《日時》 2019年1月23日～1月24日

《参加者》 アルゼンチン、バングラデシュ、中国、コートジボワール、ジョージア、インド、インドネシア、ケニア、マダガスカル、モロッコ、ペルー、ルーマニア、サウジアラビアの中央・地方政府行政官、世界銀行融資案件担当者等 約100名



2日目博多駅視察の様子



2日目講義受講中の様子



3日目研修のフィードバックの様子



博多駅での集合写真

II 国連ハビタットの最近の活動

世界に広がる「福岡方式」のごみ埋立技術

国連ハビタットは、持続可能な開発目標(SDGs)11「住み続けられるまちづくりを」の達成に向けて取り組む国連機関です。SDGsの17の目標にはそれぞれ指標(ターゲット)が指定されており、目標11の指標には都市の廃棄物管理についても言及があります。今回は、国連ハビタットがアフリカ・エチオピアで実施している廃棄物管理プロジェクトを紹介します。

1 ゴミ山大規模崩落の発生

40年以上も前から使用されてきたエチオピアの首都アディスアベバのごみ埋立場は、長年の堆積によりごみの層の中に充満したメタンガスが引火し煙が充満するなど、いつ火災などの災害が発生してもおかしくない状況でした。そんな中、2017年にゴミ山の崩落事故が発生し、200人も人命が失われました。亡くなった方の多くは、ゴミ山の中から再利用可能な資源を拾い生計をたてる人たちです。この事故を受け、エチオピア政府は国連ハビタットに支援を要請しました。



煙が立ち上る高さ50m、面積40haのごみ処分場



崩落により下敷きになったウェイトピッカーの集落

2 緊急現地調査(緊急アセスメント)

エチオピア政府およびアディスアベバ市の要請を受け、国連ハビタットは速やかに緊急現地調査を行いました。ごみを降ろす収集車に我先にと群がる人々、いつ再崩落してもおかしくないごみ山の急勾配の法面、腐敗と発酵が混ざった強烈な臭気…どの都市にもみられる典型的な‘アンコントロール・オープン・ダンプ’と呼ばれる状況でした。再崩落を防ぐための緊急対処が必要であると判断し、日本政府の緊急支援を得て、2018年4月から改善事業を開始しました。



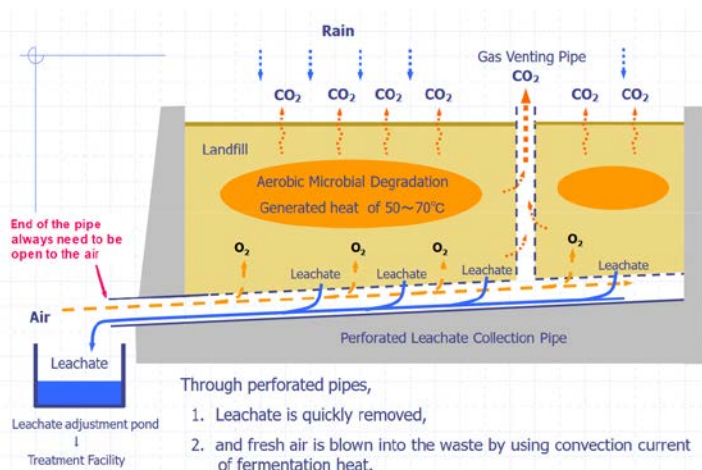
運ばれてきたごみに群がる人々



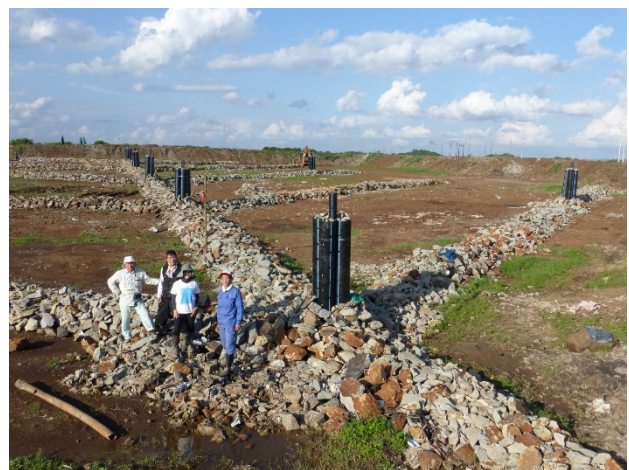
ごみ山崩壊の兆候であるいくつもの亀裂

3 「福岡方式」の採用

ごみ山の改善には「福岡方式」という埋立技術が採用されました。福岡で生まれた「福岡方式」は、またの名を準好気性埋め立て構造(Semi-aerobic Landfill)と言い、既にケニアでは導入の実績もありました。「福岡方式」のごみ埋め立て技術は、ローコストで高度な技術を必要とせず、環境にも優しく(2011年の国連気候変動枠組み条約に、環境に優しい環境技術として認定)気候や土壌など、世界の様々な実情に合わせた取り組みが可能であるため、エチオピアにおいても適用できると判断したためです。



「福岡方式」の構造



ケニアに完成した「福岡方式」のごみ埋立場

4 エチオピアの現在(プロジェクトは現在も進行中)

プロジェクトの開始当初は、現場で働く重機のオペレーターやごみを拾って生計を立てているウエスト・ピッカーの人たちとのコミュニケーションの難しさに直面しましたが、事業活動を継続するにつれ、お互い名前呼び合うようになったり、カメラを向ければ笑顔を返してくれるようになりました。

このような事業の持続可能性のためには現地の人々に寄り添い状況を改善していくことが重要です。例えば、現場での効果的な重機の運転や、現地の人々を雇用してごみ山の斜面の整備を行うことで、彼らが技術やノウハウを習得し、将来の仕事の幅を広げることができます。

本事業は 2020 年 3 月末までの完成を目指しています。同様の廃棄物の課題に直面するアフリカそして世界各国の良きモデルとなるよう、そしてエチオピアの人々のためになるよう、支援を今後も継続していきたいと思ひます。



重機によりごみ山を整備



現地の人々を雇用して作成した砂籠



★会員都市の担当者の皆様： 寄稿をお待ちしています。

貴市のトピックスや新規事業、都市問題の解決のヒントとなるような貴市における課題解決の取組みなど、お気軽に情報をお寄せください。

(ニューズレターは、アジア太平洋都市サミットホームページに掲載し、会員都市などへ email 送信しております。)

今後のアジア太平洋都市サミットの会議予定

開催時期	会議名	開催都市
2020 年	第 13 回アジア太平洋都市サミット	福岡市(日本)

アジア太平洋都市サミット：Asian-Pacific City Summit は、アジア太平洋地域の都市問題の解決に向け、市長会議や実務者による会議等を通じて、都市の連携やネットワークの構築を図っています。

アジア太平洋都市サミット会員都市 14カ国 31都市

オークランド市(ニュージーランド)	鹿児島市(日本国)
バンコク都(タイ王国)	北九州市(日本国)
ブリスベン市(オーストラリア連邦)	クアラルンプール市(マレーシア)
釜山広域市(大韓民国)	熊本市(日本国)
長沙市(中華人民共和国)	マニラ市(フィリピン共和国)
大連市(中華人民共和国)	宮崎市(日本国)
福岡市(日本国)	長崎市(日本国)
広州市(中華人民共和国)	那覇市(日本国)
光陽市(大韓民国)	大分市(日本国)
ホーチミン市(ベトナム社会主義共和国)	浦項市(大韓民国)
香港特別行政区(中華人民共和国)	佐賀市(日本国)
ホノルル市(アメリカ合衆国)	上海市(中華人民共和国)
イポー市(マレーシア)	シンガポール(シンガポール共和国)
ジャカルタ特別市(インドネシア共和国)	ウルムチ市(中華人民共和国)
済州特別自治道(大韓民国)	ウラジオストク市(ロシア連邦)
	ヤンゴン市(ミャンマー)

【編集・発行】 2019 年3月 28 日 アジア太平洋都市サミット事務局 (福岡市総務企画局国際部)

〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1 TEL: 092-711-4028 FAX:092-733-5597

E-mail: apcs@city.fukuoka.lg.jp Website: <http://apcs.city.fukuoka.lg.jp/>